

夢みてしまった。
絶望の国で——

開

東京クルド

T O K Y O K U R D S

18歳のオザンと19歳のラマザン
差別的な管法、1%に満たない難民認定率
それでも青春を生きる二人の物語



無料上映会開催！

皆様ぜひご参加下さい！

<上映日> 2023/3/11(土)13:30~

<場所> 〒262-0013 千葉市中央区中央4-13-9
千葉県弁護士会3階講堂

先着100名の事前予約制。前日15時

tokyokurds.jp

皆様ぜひご参加下さい！
 <上映日>2023/3/11(土)13:30～
 <場所>〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-9
 千葉県井土会士会3階講堂
 先着100名の事前予約制。前日15時
 までに下記URLよりお申込みを。予約が
 上限に達しない場合は当日受付も実施
<https://form.run/@kurds=167530321>

先着100名の事前予約制。前日15時
までに下記URLよりお申込みを。予約が
上限に達しない場合は当日受付も実施
<https://form.run/@kurds-1675303201>





2021年5月、
入管の収容者に対する非人道的な行為や
環境を問題視する世論の高まりを背景に、
入管法改正案は事実上の廃案となった。しかし、
本作に登場する人々が置かれている過酷な状況は
何も変わらない——



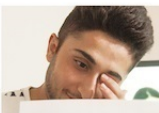


故郷での迫害を逃れ、小学生のころに日本へやってきた
オザン(18歳)とラマザン(19歳)。
二人は難民申請を続けるトルコ国籍のクルド人。
入管の収容を一旦解除される「仮放免許可書」を持つものの、
許されているのは「ただ、いること」。
身分は非正規滞在者で、住民票もなく、自由に移動することも、
働くこともできない。
また社会の無理解によって教育の機会からも遠ざけられている。
いつ収容されるかわからないという不安を常に感じながら、
それでも夢を抱き、将来を思い描く。



「難民条約」を批准しながら
難民認定率が1%にも満たない日本。
救いを求める人びとに対する差別的な仕打ち。
希望を奪っているのは誰か？ 救えるのは誰か？





2019年3月、東京入管で事件が起きた。
長期収容されていたラマザンの叔父メメット(38歳)が
極度の体調不良を訴え家族らが救急車を呼んだ。
しかし、入管は2度にわたり救急車を追い返した。
メメットが病院に搬送されたのは30時間後のことだった。
在留資格を求める声に、ある入管職員が嘲笑混じりに吐き捨てた。
“帰ればいいんだよ。他の国行ってよ”

5年以上の取材を経て描かれるオザンとラマザンの青春と「日常」。
そこから浮かび上がるのは、救いを求め懸命に生きようとする人びとに対する
この国の差別的な仕打ちだ。
かれらの希望を奪っているのは誰か？ 救えるのは誰か？
問われているのは、スクリーンを見つめる私たちだ。



tokyokurds.jp
fb.com/tokyokurds
@tokyokurds




<プログラム>
主催者挨拶 13:30-13:35
弁護士による入管難民問題の概説 13:35-13:50
映画上映 14:00-16:00
アフタートーク 16:00-16:15
<主催>千葉県弁護士会 外国人の権利委員会
<お問合せ>043-227-8431千葉県弁護士会事務局宛

<絵画作文展同時開催のお知らせ>仮放免中の子どもたちの絵画作文展
(協力：入管を変える！弁護士ネットワーク)を同時開催します。入管収容から一時的に身柄の拘束を解かれた仮放免の状態で日本に暮らす子供たちの作品です。いつか収容されてしまうかもしれない、強制送還によって家族が離れ離れになってしまうかもしれない、そんな恐怖と闘っている子供たちが表現した「家族の絆」。ぜひご覧ください。